
《太妹》ケーキ《2010、クリスマス》

天狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《太妹》ケーキ《2010、クリスマス》

【Nコード】

N6363P

【作者名】

天狼

【あらすじ】

太子と妹子のクリスマス！

(前書き)

甘いです (^ ^)

「妹子！今年のクリスマスはすっごいベタなパーティーしよう！」
「嫌ですよ、面倒臭い。」

「ブヒーっ！馬子さんのばーか！！」

聖徳太子は怒っていた。
蘇我馬子に怒っていた。

「今日が何の日か解つててこんなに仕事入れたのかよっ！」

今日は恋人達のクリスマス。そんな日に限って馬子さんはかたきのように仕事を用意してきた。

太子が用意されていた仕事を全て片づけた頃にはとくに日は暮れてしまっていた。

今日ばかりは（いつもの事だが）意地でも早く仕事を切り上げて、恋人である妹子とイチヤイチヤするつもりであった。そのため、仕事がここまで時間のかかるものであったことは、太子としては大誤算であつたのだ。

「いーもーこおー！……あれ？」

太子はいつものように、妹子が仕事をまだやっているか、仕事をやっているふりをして自分を待っていてくれると信じていた。と

いか、確信していた。だから、迷うことなく妹子の仕事部屋を訪れ、スッパーンと物凄い勢いで襖を開けたのだ。

しかし、妹子の仕事部屋は几帳面に整頓されており、蛻の殻だった。

「えー…妹子おー…。」

何度も言うようだが、今日は恋人達のクリスマスなのだ。

なのに、妹子は先に家に帰ってしまった。

机の上には「丁寧」に『先帰ります』と妹子らしい几帳面な字で置き手紙がなされている。

「くそおー…あんの芋野郎……。」

こうなったら、家に押し掛けてやる！

太子は妹子の家へと急いだ。

妹子の家に着いた太子は、驚いた。

明かりがついてないのである。

時は飛鳥時代。確かに、現代ほど窓から明かりが漏れることはないが、中で蝋燭を灯しているか否かぐらいは、外から見ても案外解るものである。

「妹子…いないの？」

妹子が家に帰り着いていない理由を太子なりにいろいろ考えた。

一つ目、他人の家でクリスマスを過ごすつもりである。つまり……うん。ないな。ああ見えて妹子は私にゾッコンなんだ。（たぶん）二つ目、帰る途中で道に迷った。妹子に限ってこれは、ない。三つ目、帰る途中で誰かに襲われた。……あり得る。妹子は可愛いから……あ、やっぱない。あいつは、筋肉おばけだ。

……季節は冬。太子はジャージ。
正直言つて、これ以上外で妹子の失踪について考えるのは無理があった。

「家入ろっ。」

太子は遠慮なしに妹子の家へ入っていった。（先日合い鍵を貰った。）

妹子の家の中は、不思議と暖かく、カレーの香りがした。

ん……？カレーの香り？

「まさかつ！」

太子は、カレーの香りがする居間へと急いだ。

スッパーン！と襖を開けると、
パンツ！と音がして紙テープやら紙吹雪やらがヒラヒラ落ちてきた。

「メリークリスマス、太子。」

居間には、妹子がパーティーのときにかぶるとんがり帽子をかぶって、使用済みクッカードをこちらに向けていた。机の上にはケーキとカレーが用意されていた。

「いーもーこおー!」

「わあ! うざいなあ、もう!」

抱きつこうと飛びかかった太子を華麗に避けると、妹子は太子の頭に自分とお揃いの帽子をかぶせた。

「これで満足ですか?」

「ふえ? 何が?」

「何がって……先日言っただじやないですか! 『ベタなクリスマスパーティーがしたい』って……。」

「……ああ! そんな事も言っただなあ!」

先日仕事をさぼり妹子の部屋へ遊びに行ったとき、そんなことを言っただ気がする。

「ちよつ、太子! 忘れてたんですか!」

「ごめんごめん! 妹子、良く覚えてたね! ありがとう!」

太子が笑いかけると、妹子は俯いた。

「妹子……?」

太子が妹子の顔を見ようとすると、ふいっと顔を背けられる。

「いーもーこおー?」

「……あなたの笑顔は、狡い。」
「……？」

太子がキョトンとしているのを見て、妹子は笑った。
妹子の顔は少し赤くなっていた。

「なんでもないです。喜んでいただけで良かったです。さあ、続き
しましょう。」

妹子は机の上にあるケーキの蠟燭に灯を灯した。

(後書き)

太子と妹子はずっとイチャイチャしてほしいですWWW

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6363p/>

《太妹》ケーキ《2010、クリスマス》

2010年12月31日00時35分発行